

新型コロナウイルス検定

出題・解説：山口征啓（やまぐち ゆきひろ）先生
 山口健和会大手町病院 副院長、総合診療科・感染症内科
 日本内科学会専門医、日本感染症学会専門医、指導医

1997年大分医科大学卒業。健和会大手町病院にて研修後、2006年より米国New Mexico大学留学。2008年健和会大手町病院にて米国式感染症内科フェローシップを立ち上げる。2011年より現職。

新型コロナウイルスの病原性、感染力

第1問 どのくらい病原性が高い？

たまに肺炎になる人がいる

幸い現在までのところ新型コロナウイルス感染症はそれほど重症度が高くないのではないかと考えられています。過度に恐れることなく**基本的な対応（手洗いと咳エチケット）を行ないましょう**。もともと持病があって病院で定期的に投薬を受けている方は担当の先生に対応についてお尋ねください。

第2問 感染力についてもっとも適切なものはどれ？

同じ部屋に何時間も一緒にいるとうつる

新型コロナウイルスは咳やくしゃみなどの飛沫でうつり、感染力はインフルエンザより少し強いのではないかと考えられています。距離にすると1-2m以内でうつることがありますが、麻疹や結核のような空気感染はおこしませんので、別の部屋にうつることはありません。すれ違っただけでうつることもまずないでしょう。

第3問 新型コロナウイルスによる肺炎にかかりやすい年齢は？

25歳以上

武漢での肺炎患者41名の調査によると、肺炎を起こした患者さんの平均年齢は49歳で、**40～50代が約半数を占めていました**。一方で18歳未満で肺炎になった人はいませんでした。新型コロナウイルスは子供では重症になりにくいようです。

予 防 法

第4問 予防法としてもっとも重要なものはどれ？

手洗いと咳エチケット

手洗いと咳やくしゃみがあるときの咳エチケットが最も重要な予防法です。まず、帰宅時や食事の前には手洗いをおこないましょう。咳やくしゃみがあるときはマスクをするか、ティッシュやハンカチで覆うか、何もなければ二の腕で覆って飛び散るのを防ぎましょう。

第5問 予防法としてもっとも重要で「ない」ものはどれ？

予防的なマスク着用

感染症への抵抗力を下げないためには、**十分な睡眠や食事、過労を避けること**が重要です。症状がない時にマスク着用してもほとんど効果がありません。安易にマスクに頼る前に生活習慣を見直し、無理しないように心がけましょう。

発熱時の対応

第6問 中国湖北省から帰ってきた方に会ったあとに、咳がでるようになりました。今後の対応として正しいものはどれ？

帰国者・接触者相談センターに電話する

新型コロナウイルスの流行地域から帰ってきた人や流行地から帰ってきた人に会った人で、咳や発熱などの症状がある場合、新型コロナウイルスの検査の対象になります。ただし、いきなり病院を受診するのではなく、**まずは地域の帰国者・接触者相談センターに電話**しましょう。どこの医療機関を受診すればよいか教えてくれます。

第7問 渡航歴はないし、中国から帰ってきた人にも会っていませんが、昼間に38.0℃の熱がでました。それほどきつくはありません。正しい対応は次のうちどれ？

最寄りのクリニックを受診する

発熱が4日以上続く場合や、きつさや息苦しさがない場合は通常通りにお近くの医療機関を受診してください。症状がひどくなければ自宅で安静にしてもよいでしょう。

検査、治療、その他

第8問 新型コロナウイルスの検査について正しいものはどれ？

保健所に依頼しないと検査できない

新型コロナウイルスの検査は特殊な検査なので、**通常の病院やクリニックでは行なえません**。医療機関から保健所に依頼して、必要と判断されれば、研究所で行なうこととなります。

第9問 新型コロナウイルスの治療について正しいものは次のうちどれ？

特別な治療はない

残念ながら今のところ新型コロナウイルスに対する特効薬はありません。ワクチンもまだ開発されていません。肺炎で入院した場合は必要に応じて酸素を投与したり、解熱剤を使用したりという対症療法を行います。

第10問 隣に外国人の方が住んでいます。最近海外旅行はしてないようです。対応として正しいものはどれ？

普段どおり接する

外国人というだけで特別な対応をとる必要はもちろんありません。日本に住んでいて、最近海外に旅行したことがなければ、日本人と同等のリスクになります。今回の新型コロナウイルスではパニックに近い騒ぎになっており、すでに海外でアジア人が差別されることが起こっています。正確な情報を把握し、冷静に対応しましょう。